

医学部を卒業し、初期臨床研修を終えて、このたび広島赤十字・原爆病院の消化器内科に専攻医として入職させていただきました。初期研修ではさまざまな診療科を経験する中で、患者さまと継続的に関わり、奥深い診断と治療に携わることができる内科、特に消化器内科の魅力にひかれました。当科への配置が決まった時は、希望がかなう喜びと同時に大きな責任を感じているところです。

専攻医1年目の現在、私は日々多くの課題に直面しています。症例の多さと必要な知識の深さに戸惑うことも多く、急変患者への対応を求められ、自分の判断力や技術不足を痛感することもあります。消化器内視鏡も思うように操作できず、患者さまに苦痛を与えてしまわないか不安を感じる日々です。また、夜間・当直業務による睡眠不足と身体的疲労も、予想以上に大きな負担となっています。しかし、これらのストレスや不安こそが、私の成長の源泉だと考えています。指導医の先生方は、決して完璧を求めるのではなく、失敗から学ぶことの重要性を何度も教えてくださいました。疾患の理解が不十分であれば、その場で説明いただき、さらに自分で調べ、次の類似症例ではどう対応するかを考えさせてくれます。この繰り返しのうちに、医師としての基礎が築かれていくのだと感じています。

当科は困難を乗り越えるための環境と人材に恵まれています。患者さまの診療を通じて実践的な知識と技術を習得できるのはもちろん、指導医の先生方や先輩医師との関係の中で、医師としての心構えや患者さまへの向き合い方を学

んでいます。カンファレンスでの活発な議論、文献検討の重要性、そして何よりも「患者さまのため」という共通の思いが、このチーム全体を支えています。

専攻医としての研修を通じて、私が目指すのは「患者さまを最優先に考え、継続的に自分を高めようとする消化器内科医」です。当直時の判断力も、内視鏡技術も、疾患知識も、すべては患者さまのためにあると考え、現在の不安やストレスを感じながらも、一つ一つの症例から真摯に学び、先生方のご指導を大切に、同僚医師との連携を重視する姿勢を貫きます。

また、診療のみならず、論文作成や症例検討を通じて、学問的な探究心を忘れず、生涯学習の道を歩む医師となることを誓います。なにぶん若輩者ではございますが、皆さまの温かいご指導とご支援のもと、消化器内科医として、社会に貢献できる医師へと成長したいと考えております。

広島赤十字・原爆病院の消化器内科に入局できたことは、人生の大きな転機であり、ここでは私を導き、励ましてくださる多くの先生方に恵まれました。患者さまを中心に考える姿勢を忘れず、これから一步一步着実に進んでいきたいと思います。これからの研修期間を通じて、医師としての責任を果たし、患者さまから信頼される消化器内科医となるべく、全力を尽くします。何かとお手数をおかけすることもあると思いますが、皆さまの温かいご指導をいただきながら精進してまいります。よろしくお願いいたします。

ポリファーマシー対策に関する啓発資材

令和7年度 広島県地域保健対策協議会「医薬品の適正使用検討特別委員会」でポリファーマシー対策に関する患者・患者家族向け啓発資材を作成いたしました。会員の皆さまにおかれましては、御活用いただきますようお願いいたします。

【患者・患者家族向け啓発資材掲載ページ（広島県ホームページ）】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/59/polypharmacy.html>